



発行  
〒860-0013 長崎市中央2丁目2番5号  
長崎高教組会館  
長崎高等専門学校教職員組合  
☎ (095)-827-5882  
FAX (095)-826-2976  
編集責任者 小田 誠  
購読料 一部10円  
組合員は組合費に含む  
メールアドレス  
naga-kks@fsinet.or.jp

# 「子どものいのちと心を守る」市民集会

## 子どもたちがさまざまな問題行動を起こした時に なぜそんなことをしたのかしっかりと聞く、調べる。 そういう姿勢が親にも教師にも求められる。



佐世保女子高校生事件についての市民集会、「子どものいのちと心を守るために」(主催…子どもいのちと心を守る市民ネットワーク)が9月23日佐世保市で開かれ、約400人の市民が参加し、高教組から16人が参加しました。

この事件について、23年間、長崎の不登校問題に携わってこられた広木克行さん(神戸大学名誉教授)が自身の思いを語られました。

### 大久保小学校 事件の教訓は?

まず10年前の大久保小学校事件について切り出され、当時、専門家による第3者の検証委員会の立ち上げが強く望まれたものの、結局、教委のみの身内の検証・分析で蓋が閉められてしまい、大久保小事件の教訓が共有されなかった。その意味で今回の事件は想定内であったと話されました。

また、大久保小事件の背景として、長崎でも中高一貫教育が導入され競争主義に拍車がかかったことを指摘されました。

### 競争主義は何をもたらしたか?

不登校の出現率を見ると、長崎県は2003年には全国最低でした。しかし、07年では中学校での出現率は1.5倍となり、その後の10年間で長崎はいじめによる自殺や非行が増加していききました。教育のしくみのあり方が子どもたちの心に深刻なストレスを与えたと指摘されました。

この10年間で県教委が「命の教育」を重要な施策と位置づけ、各学校にとりくみを指示してきているものの、競争主義の社会の中で、いい成績、いい結果を出さなければ認められないと追い込まれている子どもにとつては、「命の教育」という言葉そのものが空々しいものとして受け止められてはいなかったか。教育の見直さない限り、子どもたちの悲劇は続く予感がすると警告されました。

また、学力も大切だが、思春期の中で揺れ動く子どもの心の感情にきちんと向き合う教育が、今まさにすべての学校に必要であり、競争原理、力向上のみでの教育では自己否定感を強める子どもが今後とも増え続けると示唆されました。

講演会の感想と今後の取り組みへの意見が多く参加者から寄せられました。一人でも多くの多くの先生方に、感想や意見を読んでもらいたいという主催者の「ふきのとう」のご好意を受け、高教組の責任でいくつかを選んで紹介します。

### 講演会の感想

・加害少女の心の分析のところが涙がでました。あんな環境なら自分も冷静でいられるか不明です。先生の分かりやすい話しに納得いくところばかりでした。(地域活動)

・私自身も高校1年生の息子に「勉強しなさい」「学年で何番以内に入りなさい」が口癖でした。反省しました。どんなにプレッシャーだったか。もっともっと息子のがんばりを認めてあげたいと思いました。(親)

・(加害少女の心の変化や成長、事件の真相解明にとつて)お父様がキーパーソンになられるというお話しになったとき、自分の中でお父様に対する気持ちの向きが明らかになりました。お父様のまわりの方々が、今後決して裁かずあたたく支えていくこと、また、私たち一人一人が身近な人たちをあたたく気持ちで支えていくことがこんな悲しいことを起こさないようにするために、確かにできているのだと分かってきました。(教員)

・今回の事件は「特別な事」、「家庭内に原因がある事」、「父親を殴打した時学校が通告していたら(教育委員会や児童相談所等は)どんなことをしてか、学校を責めるのは間違っていると思います。教育委員会に相談しにくい、連携の取りにくさ、それぞれの機関が自分のところだけを守ろうとし、他に責任転嫁しようとする関係性が問題。(親)

・高教現場では仕事を早く多量にこなすことで、この事件の後も「生徒の顔をやさしくできるような仕掛けをしてほしい」との指示は当然ありますが、別の成果目標が減るわけではありませぬ。誠実に生徒と向き合う教員はほとんど時間を突き出さなければならぬ。当該校の先生方が今本当にやらなければならぬことを理解しつつ、それでも学校に対する成果目標が減ることはないだろうかと暗くなります。教育システムがそもそも問題だと思えます。今は学校が本当に危機的な状況だと分かりました。(教員)

・事件の真相を深く分析しておられ、大変、的を射た内容と感じた。この講演を聞いた人の中に、教委、市教委、児相の上層部の方がいれば行動を起こしてほしい。(50代)

・善悪の指導がある前に「動機」を理解してほしい。(民生委員)

・子どもの心に寄り添って心の叫びを聞いてあげたい。(民生委員)

・目の前の青年たちに丁寧に対応する。寄つて来た青年たちをゆっくり休ませてあげる。(教員)

・弁護士グループから提言がなされているように加害者を安易に逆送することはやめて十分に時間をかけて生育歴や家庭環境その他様々な要因を探

って審判を下してほしい。そして更正医療を通して更正して欲しい。一命を見つめる強調が継続が考えられている。大人側の計画も大切であるが、もっと子どもたちと向き合う時間、教師がゆとりを持って子どもとじっくり向き合う時間を作るのがより大事。(教員)

・私の娘世代が親になっていく姿を見るにつけて「親育て」がこれからの大人になりきつていない親が子育てをする中で、周りのサポートが本当に必要なです。(保育士)

・地域で子どもや大人の心を学ぶ場が必要だと思えます。不健全な部分、気になる事を見つけたら言える人、いやいやで健全な理解を育む。すべての小中高校にカウンセラーを置くことを県に要望したいと思えます。担任の教師に補助教師をつけて勉強ばかりでなく他の面のサポートもして欲しい。先生方が忙しすぎないように、鬱病も多いと聞きませう。先生方にはゆとりを持ってもらいたいです。社会はどんどんスピードが増し、ますます子どもたちはついて行けず不登校や非行やいじめが多くなると思います。県は子どもにお金をかけて欲しい。(地域活動)

・今回の事件は「特別な事」、「家庭内に原因がある事」、「父親を殴打した時学校が通告していたら(教育委員会や児童相談所等は)どんなことをしてか、学校を責めるのは間違っていると思います。教育委員会に相談しにくい、連携の取りにくさ、それぞれの機関が自分のところだけを守ろうとし、他に責任転嫁しようとする関係性が問題。(親)

・高教現場では仕事を早く多量にこなすことで、この事件の後も「生徒の顔をやさしくできるような仕掛けをしてほしい」との指示は当然ありますが、別の成果目標が減るわけではありませぬ。誠実に生徒と向き合う教員はほとんど時間を突き出さなければならぬ。当該校の先生方が今本当にやらなければならぬことを理解しつつ、それでも学校に対する成果目標が減ることはないだろうかと暗くなります。教育システムがそもそも問題だと思えます。今は学校が本当に危機的な状況だと分かりました。(教員)

・事件の真相を深く分析しておられ、大変、的を射た内容と感じた。この講演を聞いた人の中に、教委、市教委、児相の上層部の方がいれば行動を起こしてほしい。(50代)

・善悪の指導がある前に「動機」を理解してほしい。(民生委員)

・子どもの心に寄り添って心の叫びを聞いてあげたい。(民生委員)

・目の前の青年たちに丁寧に対応する。寄つて来た青年たちをゆっくり休ませてあげる。(教員)

・弁護士グループから提言がなされているように加害者を安易に逆送することはやめて十分に時間をかけて生育歴や家庭環境その他様々な要因を探

って審判を下してほしい。そして更正医療を通して更正して欲しい。一命を見つめる強調が継続が考えられている。大人側の計画も大切であるが、もっと子どもたちと向き合う時間、教師がゆとりを持って子どもとじっくり向き合う時間を作るのがより大事。(教員)

・私の娘世代が親になっていく姿を見るにつけて「親育て」がこれからの大人になりきつていない親が子育てをする中で、周りのサポートが本当に必要なです。(保育士)

・地域で子どもや大人の心を学ぶ場が必要だと思えます。不健全な部分、気になる事を見つけたら言える人、いやいやで健全な理解を育む。すべての小中高校にカウンセラーを置くことを県に要望したいと思えます。担任の教師に補助教師をつけて勉強ばかりでなく他の面のサポートもして欲しい。先生方が忙しすぎないように、鬱病も多いと聞きませう。先生方にはゆとりを持ってもらいたいです。社会はどんどんスピードが増し、ますます子どもたちはついて行けず不登校や非行やいじめが多くなると思います。県は子どもにお金をかけて欲しい。(地域活動)

・今回の事件は「特別な事」、「家庭内に原因がある事」、「父親を殴打した時学校が通告していたら(教育委員会や児童相談所等は)どんなことをしてか、学校を責めるのは間違っていると思います。教育委員会に相談しにくい、連携の取りにくさ、それぞれの機関が自分のところだけを守ろうとし、他に責任転嫁しようとする関係性が問題。(親)

・高教現場では仕事を早く多量にこなすことで、この事件の後も「生徒の顔をやさしくできるような仕掛けをしてほしい」との指示は当然ありますが、別の成果目標が減るわけではありませぬ。誠実に生徒と向き合う教員はほとんど時間を突き出さなければならぬ。当該校の先生方が今本当にやらなければならぬことを理解しつつ、それでも学校に対する成果目標が減ることはないだろうかと暗くなります。教育システムがそもそも問題だと思えます。今は学校が本当に危機的な状況だと分かりました。(教員)

・事件の真相を深く分析しておられ、大変、的を射た内容と感じた。この講演を聞いた人の中に、教委、市教委、児相の上層部の方がいれば行動を起こしてほしい。(50代)

・善悪の指導がある前に「動機」を理解してほしい。(民生委員)

・子どもの心に寄り添って心の叫びを聞いてあげたい。(民生委員)

・目の前の青年たちに丁寧に対応する。寄つて来た青年たちをゆっくり休ませてあげる。(教員)

・弁護士グループから提言がなされているように加害者を安易に逆送することはやめて十分に時間をかけて生育歴や家庭環境その他様々な要因を探

って審判を下してほしい。そして更正医療を通して更正して欲しい。一命を見つめる強調が継続が考えられている。大人側の計画も大切であるが、もっと子どもたちと向き合う時間、教師がゆとりを持って子どもとじっくり向き合う時間を作るのがより大事。(教員)

・私の娘世代が親になっていく姿を見るにつけて「親育て」がこれからの大人になりきつていない親が子育てをする中で、周りのサポートが本当に必要なです。(保育士)

・地域で子どもや大人の心を学ぶ場が必要だと思えます。不健全な部分、気になる事を見つけたら言える人、いやいやで健全な理解を育む。すべての小中高校にカウンセラーを置くことを県に要望したいと思えます。担任の教師に補助教師をつけて勉強ばかりでなく他の面のサポートもして欲しい。先生方が忙しすぎないように、鬱病も多いと聞きませう。先生方にはゆとりを持ってもらいたいです。社会はどんどんスピードが増し、ますます子どもたちはついて行けず不登校や非行やいじめが多くなると思います。県は子どもにお金をかけて欲しい。(地域活動)

・今回の事件は「特別な事」、「家庭内に原因がある事」、「父親を殴打した時学校が通告していたら(教育委員会や児童相談所等は)どんなことをしてか、学校を責めるのは間違っていると思います。教育委員会に相談しにくい、連携の取りにくさ、それぞれの機関が自分のところだけを守ろうとし、他に責任転嫁しようとする関係性が問題。(親)

・高教現場では仕事を早く多量にこなすことで、この事件の後も「生徒の顔をやさしくできるような仕掛けをしてほしい」との指示は当然ありますが、別の成果目標が減るわけではありませぬ。誠実に生徒と向き合う教員はほとんど時間を突き出さなければならぬ。当該校の先生方が今本当にやらなければならぬことを理解しつつ、それでも学校に対する成果目標が減ることはないだろうかと暗くなります。教育システムがそもそも問題だと思えます。今は学校が本当に危機的な状況だと分かりました。(教員)

・事件の真相を深く分析しておられ、大変、的を射た内容と感じた。この講演を聞いた人の中に、教委、市教委、児相の上層部の方がいれば行動を起こしてほしい。(50代)

・善悪の指導がある前に「動機」を理解してほしい。(民生委員)

・子どもの心に寄り添って心の叫びを聞いてあげたい。(民生委員)

・目の前の青年たちに丁寧に対応する。寄つて来た青年たちをゆっくり休ませてあげる。(教員)

市民集会と夏の全国教研「教育のつどい」の中、私達はずっと忘れずに追い続けなければならぬ。



人事異動基本方針等についての県教委交渉

満了に1年足りないからということで 機械的には扱わない(県教委)

高教組は10月1日、人事異動基本方針等についての要求書(9月2日提出)に基づく県教委交渉を行いました。交渉の中で高教組は、今年8月に改定された人事異動基本方針に対する学校現場からの声を紹介しながら、教職員の要求に応えた運用や人事作業を求めました。

高教組は、今回の改定で最も批判の大きい、同一校勤続4年で異動対象とする点について、4年で異動するのは本人の希望がある場合に限定すること、「1人によって勤続年数に大きな差が出ないように、勤続6年を標準として明確にすること」を求めました。これに対して県教委は、「4年では限定的な異動が考えられるが、希望がある場合に限り、(希望が)明確にできない」と標準を考へていないが、いろいろなかでもそういう指摘があるので、十分配慮してやっていきたい」と、要求に一定配慮する姿勢を示したものの、異動希望なしでも勤続4年での異動があること、人によって勤続年数に大きな差が出る可能性があること、は否定しませんでした。そのため高教組は、勤続年数に差が出る点について、教職員の不平等感の大きさを改めて指摘し、そうした不平等感を生まない人事作業を求めました。

また、「新採者がその地区の満了まで勤続することを希望する場合はそれを尊重すること」とい

う要求に対しても、「尊重するが、科目によって困難なところがあるので、部分はある」という回答にとどまりました。このことに関連して高教組は、第四地区以外は4年で満了ということになれば、これまで、新採やクラス減などの人事行政上の必要で、異動希望がなかったのに3年で異動させられた人たちにどうして、1年足りないだけなのにこの地区を経験していかないことになることへの不満が大きいことを指摘し、「満了」の年数に幅を持たせて考えるべきではないかと質しました。これに対して県教委は「経験していないということにはなっていない。行っていないけど少し足りないうということでは全然行っていないのと同じではない」ということでは、4年未満での異動になったかまで考えて人事作業をすることができない」と回答しました。

他の主な要求事項に対する県教委の回答は次のとおりです。

○別居や単身赴任、長時間通勤となるような人事は行わないこと  
県：努力する。本当はその地区に行つて教育を気持ちがあるが、家を持っていないとか、子どもの通学とかということがあるので、十分配慮しながらやっています。

○子育て中の教職員の意向に最大限配慮すること  
県：努力する。教職員定数減等の「行政の必要」による異動については、異動先の本人の希望を最大限に尊重すること。

○本人の希望と異なる異動になった場合は、内示の際にその理由等について本人に説明すること。

○欠員補充を大幅に減らし、正規採用者を増やすこと

県：このことについては、校長にお願いしている。

県：欠員補充を減らし、正規採用を増やすことは我々も考えている。

佐世保支部と島原支部で新加入

長崎県労連第27回定期大会 大場氏(高教組前委員長)を新議長に選出

9月21日(日)、長崎県労連の第27回定期大会が諫早市のたらみ会館で開催され、高教組から5人(代議員3人、県労連役員2人)が参加しました。大会では、代議員12人から、おとり運送・光洋商事の解雇撤回裁判やパワハラなどに対する職場のたたかい、憲法、年金、組織拡大などの課題について発言があり、採決の結果、全労連「大運動」への参画、憲法を守る活動の強化と国民共同、仲間づくり(組織拡大)の3つを柱とする1年間の運動方針を決定しました。また、役員改選も行われ、新議長に大場雅信さん(高教組前委員長)が選出されました。

前号で、組合の歴史や存在価値について、本部執行部の考えを述べ、そして組織拡大の必然性を訴えました。同時に、全国の若い先生方の組合加入の動きも紹介しました。それで動きがあったとは思ってはいませんが、うれしいことに、佐世保支部と島原支部で新加入がありました。明るい未来が見えてくるよううれしく、ワクワクする報告です。分會では、是非歓迎会を開いてほしいと思つています。本部から歓迎会補助を行います。



どういった経緯で加入までこぎつけたのかの詳細はお伝えできませんが、深刻になりすぎず、声をかけて、人間関係を作りあげていくことが大切です。高教組は、長崎の県立・市立の高等学校そして特別支援学校の先生方の生活と権利、そして児童・生徒の教育を守ります。笑顔で、声かけを、ご一緒に。



塩塚前議長(左)と大場新議長(右)

2014 全国教職員学習交流集会 in 北九州 11月22日(土)・23日(日)

- ①「憲法を守り、いかし、子どもも教職員も大切にされる学校・社会」をスローガンに、全国組織の所属の違いを超えて小中高特支の教職員が、北九州に集まります。一橋大学の渡辺治さんの講演、5つの領域別分科会と4つの基礎講座が開かれます。案内リーフに書いてありますが、基礎講座の①「困難を抱える子どもたちの思いに寄り添おう」②「目からうろこ」の働き方講座③「子どもたちの未来に原発はいらない」④「どうやって最近クラスどう?授業どう?」は、特に若い先生方や原発問題に関心のある先生方にお勧めの講座です。また、夜の交流会として、「女性教職員」、「青年教職員」、「障害児学校」、「大震災・原発問題」などが開かれます。ぜひ全国の先生方と交流を活発に行い、全国との状況と長崎の状況を確認しましょう。

嬉野スパリエーマラソン

「42.195km嬉野SPリエーマラソン」に「全教共済長崎」チームとして、8人(未組合員1人を含む)で出場しました。1周2kmのコースを21周しました。私たちのチームは1周交代で、1人あたり2周4km、または3周6kmを全力で走りました。3回走るということで、1回目や2回目はペースを控えめにしようとして話をしていたのですが、いざ走り出したら一生懸命になり、3回目はバテ気味の方もいました。当初は制限時間の4時間が目標でしたが、終わってみたら3時間7分8秒で、参加チーム中真ん中くらいの順位でした。40代1人、50代7人の急造チームにしては上出来でした。

今回は、全教共済の「集い合い促進費」から補助をいただき、参加することができました。この活動が全教共済や高教組の拡大につながるような宣伝も行いましたが、拡大は今後に期待したいと思つています。また、日本国憲法の条文を印刷したゼッケンを事前に準備し、走ることで「憲法を守ろう」というメッセージをアピールしながら走りました。終了後は、全員で弁当を囲み、嬉野の温泉に入つて疲れをとりました。これからもこのような大会がある時は、各分会に連絡をしますので、より多くの方の参加をお待ちしております。参加された皆様お疲れ様でした。



全教共済ののぼりと8人の走者